

大阪市の推計人口年報（平成29年）

～平成29年10月1日現在の推計人口と1年間の人口異動の動向～

平成29年12月

大 阪 市

目 次

1	人 口 総 数	1
2	男 女 別 人 口	1
3	世 帯 数	2
4	区 別 人 口	2
5	区 別 世 帯 数	5
6	人 口 異 動	7
7	年 齢 別 人 口	12

《利用上の注意》

・推計方法について

推計人口（毎月1日現在）は、平成24年7月までは、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の増減を国勢調査結果の人口に加減して算出し、平成24年8月以降は、外国人住民が住民基本台帳に含まれることから、「住民基本台帳」の月々の増減を加減して算出している。本資料は平成27年国勢調査結果による推計人口である。

・人口異動について

推計人口においては、出生と死亡の差を自然動態（自然増減）とし、転入と転出の差にその他の増減を加減したものを社会動態（社会増減）とした。その他の増減とは、実態調査や帰化等及び国籍喪失等による職権記載・消除者数である。転入、転出は市内の区相互間を含んでいる。

人口異動の自然増減率、出生率、死亡率、社会増減率、転入率、転出率は、前年10月1日現在の人口1000人に対する割合（千分比）である。※ 単位：‰（パーミル）

・年齢別人口について

年齢別人口は、平成24年7月までは、国勢調査結果の年齢、男女別人口を基準に、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の年齢、男女別人口異動を加減して算出し、平成24年8月以降は、外国人住民が住民基本台帳に含まれることから、「住民基本台帳」の月々の年齢、男女別人口異動を加減して算出した。

1 人口総数

平成 29 年 10 月 1 日の大阪市の推計人口は 271 万 3157 人で、前年（平成 28 年 10 月 1 日）と比べると 1 万 1124 人（0.4%）の増加となった。

表 1 人口の推移

年次	人口 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
平成19年	2,642,854	7,910	0.3
20年	2,650,670	7,816	0.3
21年	2,659,796	9,126	0.3
22年	2,665,314	5,518	0.2
23年	2,668,972	3,658	0.1
24年	2,674,154	5,182	0.2
25年	2,678,663	4,509	0.2
26年	2,679,808	1,145	0.0
27年	2,691,185	11,377	0.4
28年	2,702,033	10,848	0.4
29年	2,713,157	11,124	0.4

1 **太字**は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口。

2 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

2 男女別人口

平成 29 年の人口を男女別にみると、男性が 131 万 1285 人、女性が 140 万 1872 人となっている。

男女別の人口を平成 28 年と比べると、男性が 4123 人（0.3%）増、女性が 7001 人（0.5%）増とそれぞれ増加している。人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は 93.5 となっている。

表 2 男女別人口の推移

年次	男（人）		女（人）		性比
		増減数（人）		増減数（人）	
平成19年	1,284,596	3,672	1,358,258	4,238	94.6
20年	1,287,428	2,832	1,363,242	4,984	94.4
21年	1,291,950	4,522	1,367,846	4,604	94.5
22年	1,293,798	1,848	1,371,516	3,670	94.3
23年	1,294,751	953	1,374,221	2,705	94.2
24年	1,296,740	1,989	1,377,414	3,193	94.1
25年	1,297,931	1,191	1,380,732	3,318	94.0
26年	1,297,452	△ 479	1,382,356	1,624	93.9
27年	1,302,562	5,110	1,388,623	6,267	93.8
28年	1,307,162	4,600	1,394,871	6,248	93.7
29年	1,311,285	4,123	1,401,872	7,001	93.5

1 **太字**は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口。

2 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

3 世帯数

平成 29 年の世帯数は 139 万 2900 世帯で、1 世帯当たり人員は 1.95 人となっている。

これを平成 28 年と比べると、1 万 9230 世帯（1.4%）の増加となっている。

1 世帯当たり人員は減少傾向にあり、平成 28 年の 1.97 人からさらに減少し、平成 29 年では 1.95 人となった。

表 3 世帯数の推移

年次	世帯数 (世帯)	増減数 (世帯)		増減率 (%)	1 世帯当たり 人員 (人)
		増減数 (世帯)	増減率 (%)		
平成19年	1,273,724	12,611	1.0	2.07	
20年	1,289,751	16,027	1.3	2.06	
21年	1,305,639	15,888	1.2	2.04	
22年	1,317,990	12,351	0.9	2.02	
23年	1,324,740	6,750	0.5	2.01	
24年	1,332,002	7,262	0.5	2.01	
25年	1,338,910	6,908	0.5	2.00	
26年	1,345,055	6,145	0.5	1.99	
27年	1,354,793	9,738	0.7	1.99	
28年	1,373,670	18,877	1.4	1.97	
29年	1,392,900	19,230	1.4	1.95	

太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口による。

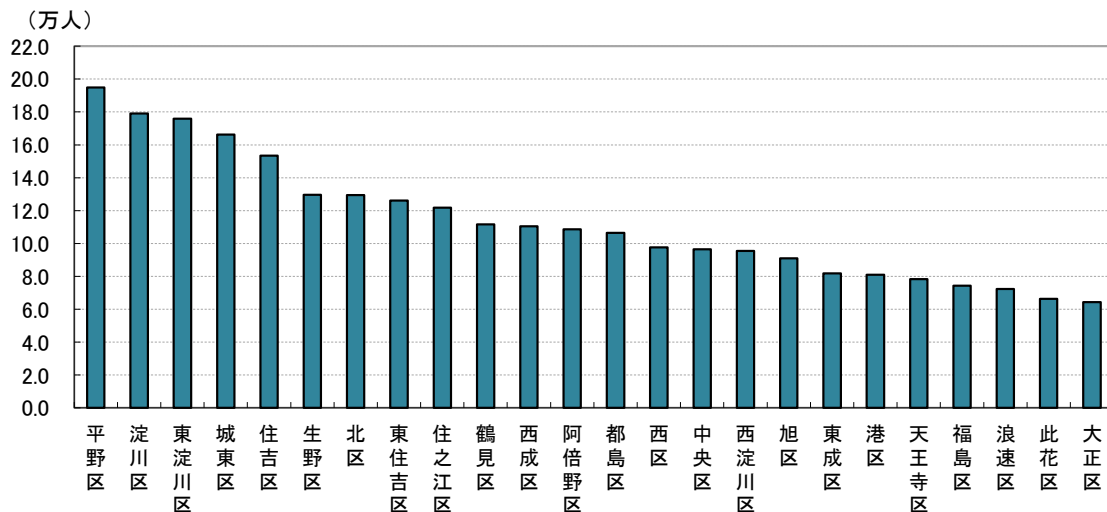
4 区別人口

平成 29 年の人口を区別にみると、平野区が 19 万 4955 人と最も多く、次いで淀川区が 17 万 9136 人、東淀川区が 17 万 5827 人、城東区が 16 万 6242 人、住吉区が 15 万 3350 人と続いている。

この 1 年間の人口増減数を区別にみると、北区が 3429 人と最も多く、次いで西区が 2145 人、浪速区が 1349 人など、引き続き市域中心部を中心に増加している一方、平野区が 800 人減と最も少なく、次いで住吉区が 519 人減、西成区が 515 人減、港区が 486 人減、住之江区が 410 人減と続いている。

人口増減率は北区が 2.7%と最も高く、次いで西区が 2.2%、浪速区が 1.9%、福島区、天王寺区、東成区が 1.4%など、人口増減数と同様に市域中心部で高くなっている一方、港区が 0.6%減と最も低く、次いで大正区、西成区が 0.5%減、旭区、平野区が 0.4%減と続いている。

図 1 区別の推計人口



平成 29 年 10 月 1 日現在推計人口による。

表4-1 区別推計人口

区名	人口（人）		対前年（平成28年）	
	平成29年	平成28年	増減数（人）	増減率（%）
大 阪 市	2,713,157	2,702,033	11,124	0.4
北 区	129,412	125,983	3,429	2.7
都 島 区	106,523	105,779	744	0.7
福 島 区	74,381	73,352	1,029	1.4
此 花 区	66,362	66,421	△ 59	△ 0.1
中 央 区	96,438	95,457	981	1.0
西 区	97,667	95,522	2,145	2.2
港 区	81,065	81,551	△ 486	△ 0.6
大 正 区	64,355	64,672	△ 317	△ 0.5
天 王 寺 区	78,372	77,290	1,082	1.4
浪 速 区	72,350	71,001	1,349	1.9
西 淀 川 区	95,518	95,374	144	0.2
淀 川 区	179,136	177,868	1,268	0.7
東 淀 川 区	175,827	175,631	196	0.1
東 成 区	81,881	80,733	1,148	1.4
生 野 区	129,693	129,838	△ 145	△ 0.1
旭 区	91,069	91,458	△ 389	△ 0.4
城 東 区	166,242	165,360	882	0.5
鶴 見 区	111,563	111,575	△ 12	△ 0.0
阿 倍 野 区	108,642	108,193	449	0.4
住 之 江 区	121,785	122,195	△ 410	△ 0.3
住 吉 区	153,350	153,869	△ 519	△ 0.3
東 住 吉 区	126,161	126,231	△ 70	△ 0.1
平 野 区	194,955	195,755	△ 800	△ 0.4
西 成 区	110,410	110,925	△ 515	△ 0.5

各年10月1日現在推計人口。

表4-2 人口増減数（上位7区）

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）
1	中央区	4,106	西区	3,092	北区	3,429
2	北区	2,995	中央区	2,388	西区	2,145
3	西区	2,690	北区	2,316	浪速区	1,349
4	浪速区	2,597	淀川区	1,667	淀川区	1,268
5	天王寺区	1,230	天王寺区	1,561	東成区	1,148
6	淀川区	1,188	浪速区	1,235	天王寺区	1,082
7	福島区	719	都島区	1,052	福島区	1,029

表4-3 人口増減数（下位7区）

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）
1	西成区	△ 2,145	西成区	△ 958	平野区	△ 800
2	住之江区	△ 922	平野区	△ 878	住吉区	△ 519
3	平野区	△ 795	住之江区	△ 793	西成区	△ 515
4	大正区	△ 788	港区	△ 484	港区	△ 486
5	東住吉区	△ 612	大正区	△ 469	住之江区	△ 410
6	生野区	△ 353	住吉区	△ 370	旭区	△ 389
7	西淀川区	△ 272	生野区	△ 329	大正区	△ 317

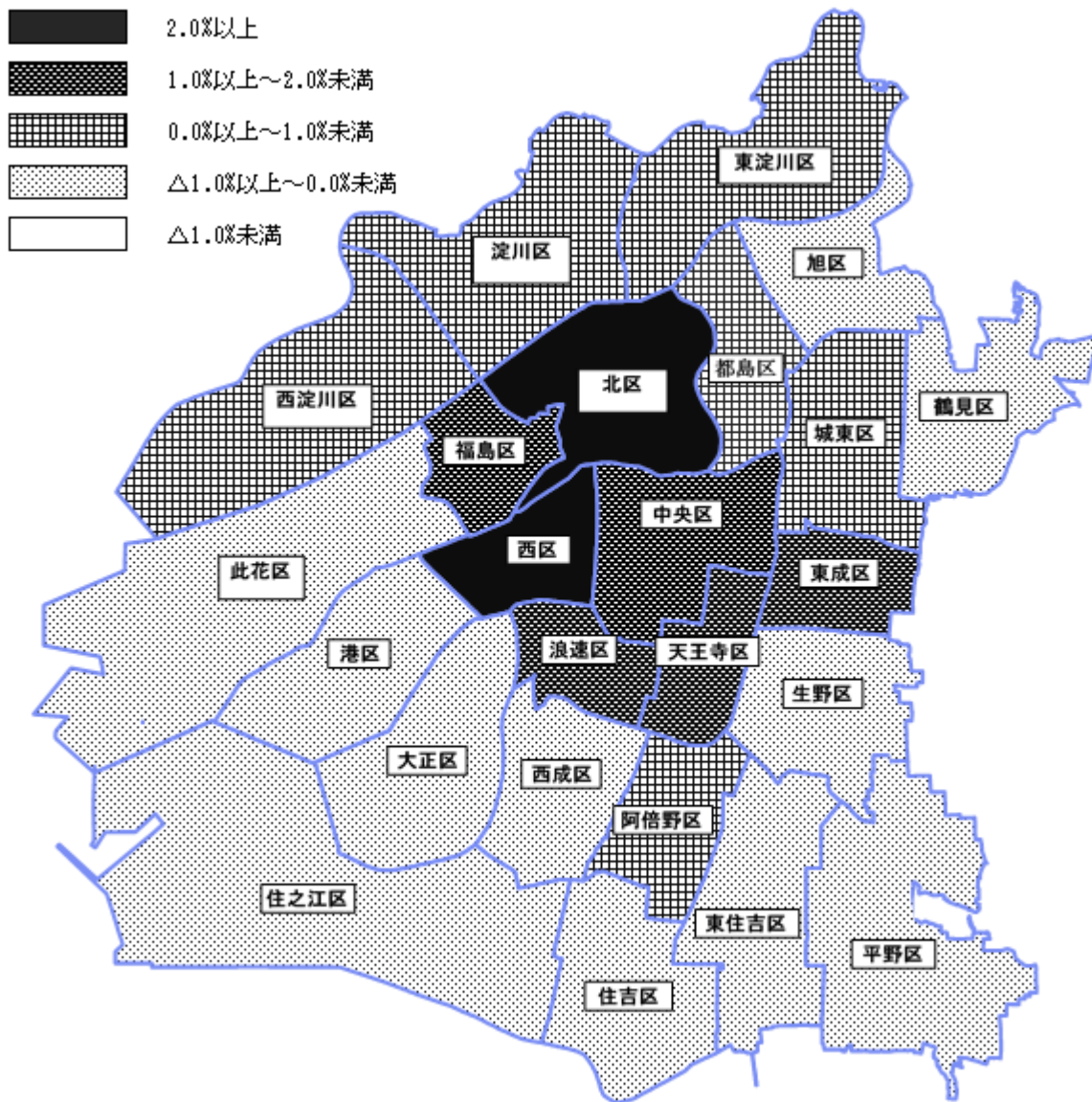
表4-4 人口増減率（上位7区）

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）
1	中央区	4.6	西区	3.3	北区	2.7
2	浪速区	3.9	中央区	2.6	西区	2.2
3	西区	3.0	天王寺区	2.1	浪速区	1.9
4	北区	2.5	北区	1.9	東成区	1.4
5	天王寺区	1.7	浪速区	1.8	福島区	1.4
6	福島区	1.0	福島区	1.2	天王寺区	1.4
7	淀川区	0.7	都島区	1.0	中央区	1.0

表4-5 人口増減率（下位7区）

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）
1	西成区	△ 1.9	西成区	△ 0.9	港区	△ 0.6
2	大正区	△ 1.2	大正区	△ 0.7	大正区	△ 0.5
3	住之江区	△ 0.7	住之江区	△ 0.6	西成区	△ 0.5
4	東住吉区	△ 0.5	港区	△ 0.6	旭区	△ 0.4
5	平野区	△ 0.4	平野区	△ 0.4	平野区	△ 0.4
6	西淀川区	△ 0.3	此花区	△ 0.4	住吉区	△ 0.3
7	生野区	△ 0.3	生野区	△ 0.3	住之江区	△ 0.3

図2 区別人口増減率の分布（平成28年～29年）



5 区別世帯数

平成29年の世帯数を区別にみると、淀川区が9万7988世帯と最も多く、次いで東淀川区が9万5174世帯、平野区が9万536世帯、城東区が7万8478世帯、北区が7万7956世帯と続いている。世帯数が最も少ない区は大正区の2万9561世帯で、次いで此花区が3万1309世帯、福島区が3万9069世帯と続いている。

この1年間の世帯数の増減数を区別にみると、北区が2200世帯と最も多く、次いで淀川区が1594世帯、西区が1540世帯、東成区が1456世帯と続いております、市内全区で増加となっている。

世帯数の増減率では、東成区が3.6%と最も高く、次いで北区が2.9%、西区が2.8%、浪速区が2.6%と、市域中心部で高くなっている。

1世帯当たり人員をみると、鶴見区が2.37人と最も多く、次いで大正区が2.18人、西淀川区が2.17人、東住吉区、平野区が2.15人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の1.45人であり、次いで中央区が1.57人、西成区が1.59人と続いている。

表5-1 区別世帯数

	世帯数（世帯）		対前年（平成28年）		1世帯当たり 人員（人）
	平成29年	平成28年	増減数（世帯）	増減率（%）	平成29年
大阪市	1,392,900	1,373,670	19,230	1.4	1.95
北 区	77,956	75,756	2,200	2.9	1.66
都 島 区	53,790	52,714	1,076	2.0	1.98
福 島 区	39,069	38,281	788	2.1	1.90
此 花 区	31,309	30,937	372	1.2	2.12
中 央 区	61,558	60,775	783	1.3	1.57
西 区	55,644	54,104	1,540	2.8	1.76
港 区	40,505	40,448	57	0.1	2.00
大 正 区	29,561	29,338	223	0.8	2.18
天 王 寺 区	39,604	38,938	666	1.7	1.98
浪 速 区	49,925	48,645	1,280	2.6	1.45
西 淀 川 区	43,985	43,358	627	1.4	2.17
淀 川 区	97,988	96,394	1,594	1.7	1.83
東 淀 川 区	95,174	93,936	1,238	1.3	1.85
東 成 区	41,718	40,262	1,456	3.6	1.96
生 野 区	65,351	64,388	963	1.5	1.98
旭 区	44,128	43,909	219	0.5	2.06
城 東 区	78,478	77,497	981	1.3	2.12
鶴 見 区	47,076	46,732	344	0.7	2.37
阿 倍 野 区	51,145	50,692	453	0.9	2.12
住 之 江 区	57,851	57,408	443	0.8	2.11
住 吉 区	72,401	72,034	367	0.5	2.12
東 住 吉 区	58,747	58,262	485	0.8	2.15
平 野 区	90,536	89,736	800	0.9	2.15
西 成 区	69,401	69,126	275	0.4	1.59

各年10月1日現在推計人口。

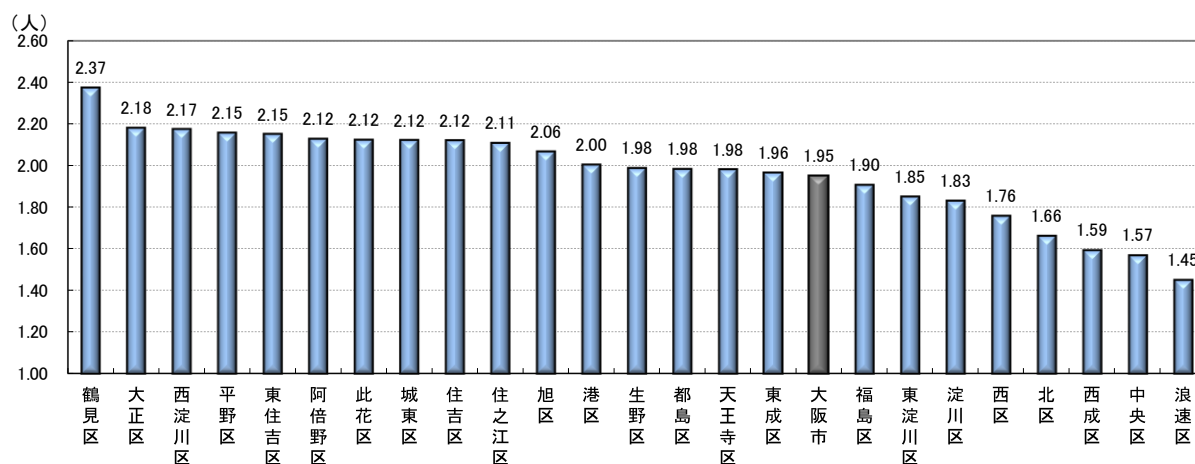
表5-2 世帯数及び1世帯当たり世帯人員（上位・下位5区）

世帯数（世帯）			
上位5区		下位5区	
淀川区	97,988	大正区	29,561
東淀川区	95,174	此花区	31,309
平野区	90,536	福島区	39,069
城東区	78,478	天王寺区	39,604
北区	77,956	港区	40,505

1世帯当たり世帯人員(人)			
上位5区		下位5区	
鶴見区	2.37	浪速区	1.45
大正区	2.18	中央区	1.57
西淀川区	2.17	西成区	1.59
平野区	2.15	北区	1.66
東住吉区	2.15	西区	1.76

平成29年10月1日現在推計人口による。

図3 区別1世帯当たり世帯人員



平成29年10月1日現在推計人口による。

6 人口異動（前年 10 月中から当年 9 月中の合計）

(1) 自然動態

平成 29 年の自然動態（出生と死亡の差）は 7181 人の減少となり、平成 28 年の自然動態（5530 人減）と比べると、減少幅は 1651 人拡大した。また、自然増減率は 2.7‰減となっている。

自然増減数を区別にみると、西区が 611 人と最も多く、次いで北区が 366 人、中央区が 346 人、天王寺区が 206 人など 6 区で増加となっている一方、西成区が 2157 人減と最も少なく、次いで生野区が 1050 人減、平野区が 819 人減、東住吉区が 781 人減と続いている。

自然増減率では、西区が 6.4‰と最も高く、次いで中央区が 3.6‰、北区が 2.9‰と続いている一方、西成区が 19.4‰減と最も低く、次いで生野区が 8.1‰減、東住吉区が 6.2‰減と続いている。

ア 出生

平成 29 年の出生数は 2 万 2142 人で、平成 28 年（2 万 2968 人）と比べると 826 人の減少となり、出生率は 8.2‰（前年 8.5‰）となっている。

出生数を区別にみると、平野区が 1477 人と最も多く、次いで淀川区が 1450 人、城東区が 1445 人、東淀川区が 1351 人と続いている。出生数が最も少ない区は大正区の 447 人となっている。

出生率では、西区が 12.4‰と最も高く、次いで福島区が 11.1‰、北区が 10.4‰、中央区、天王寺区、鶴見区が 10.2‰と続いている。最も低い区は西成区の 4.1‰となっている。

イ 死亡

平成 29 年の死亡数は 2 万 9323 人で、平成 28 年（2 万 8498 人）と比べると 825 人の増加となり、死亡率は 10.9‰（前年は 10.6‰）となっている。

死亡数を区別にみると、西成区が 2615 人と最も多く、次いで平野区が 2296 人、生野区が 1862 人、住吉区が 1795 人と続いている。死亡数が最も少ない区は西区の 575 人である。

死亡率では、西成区が 23.6‰と最も高く、次いで生野区が 14.3‰、東住吉区が 13.7‰と続いている。死亡率でも西区が 6.0‰と最も低くなっている。

ウ 外国人の自然動態

平成 29 年の自然動態のうち、外国人は 279 人の減少となり、平成 28 年の自然動態（298 人減）と比べると、減少幅は 19 人縮小した。

外国人の出生数は 644 人で、平成 28 年（604 人）と比べると 40 人の増加となっており、死亡数は 923 人で、平成 28 年（902 人）と比べると 21 人の増加となっている。

表 6-1 自然動態の推移

年次	自然増減			出生			死亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	自然 増減率 (%)	出生数 (人)	対前年 (人)	出生率 (%)	死亡数 (人)	対前年 (人)	死亡率 (%)
平成19年	△ 1,660	△ 248	△ 0.6	23,568	745	8.9	25,228	993	9.6
20年	△ 1,506	154	△ 0.6	24,028	460	9.1	25,534	306	9.7
21年	△ 1,703	△ 197	△ 0.6	23,346	△ 682	8.8	25,049	△ 485	9.5
22年	△ 3,184	△ 1,481	△ 1.2	23,608	262	8.9	26,792	1,743	10.1
23年	△ 3,945	△ 761	△ 1.5	23,766	158	8.9	27,711	919	10.4
24年	△ 4,337	△ 392	△ 1.6	23,067	△ 699	8.6	27,404	△ 307	10.3
25年	△ 5,305	△ 968	△ 2.0	23,234	167	8.7	28,539	1,135	10.7
26年	△ 5,300	5	△ 2.0	22,810	△ 424	8.5	28,110	△ 429	10.5
27年	△ 5,742	△ 442	△ 2.1	22,972	162	8.6	28,714	604	10.7
28年	△ 5,530	212	△ 2.1	22,968	△ 4	8.5	28,498	△ 216	10.6
29年	△ 7,181	△ 1,651	△ 2.7	22,142	△ 826	8.2	29,323	825	10.9

1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

3 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表 6-2 区別自然動態

区名	自然 増減数 (人)	自然 増減率 (%)	出生数 (人)	出生率 (%)	死亡数 (人)	死亡率 (%)
大 阪 市	△ 7,181	△ 2.7	22,142	8.2	29,323	10.9
北 区	366	2.9	1,306	10.4	940	7.5
都 島 区	△ 173	△ 1.6	817	7.7	990	9.4
福 島 区	201	2.7	814	11.1	613	8.4
此 花 区	△ 172	△ 2.6	580	8.7	752	11.3
中 央 区	346	3.6	972	10.2	626	6.6
西 区	611	6.4	1,186	12.4	575	6.0
港 区	△ 373	△ 4.6	580	7.1	953	11.7
大 正 区	△ 367	△ 5.7	447	6.9	814	12.6
天 王 寺 区	206	2.7	791	10.2	585	7.6
浪 速 区	△ 67	△ 0.9	593	8.4	660	9.3
西 淀 川 区	△ 232	△ 2.4	761	8.0	993	10.4
淀 川 区	△ 65	△ 0.4	1,450	8.2	1,515	8.5
東 淀 川 区	△ 343	△ 2.0	1,351	7.7	1,694	9.6
東 成 区	△ 276	△ 3.4	621	7.7	897	11.1
生 野 区	△ 1,050	△ 8.1	812	6.3	1,862	14.3
旭 区	△ 531	△ 5.8	643	7.0	1,174	12.8
城 東 区	△ 299	△ 1.8	1,445	8.7	1,744	10.5
鶴 見 区	161	1.4	1,143	10.2	982	8.8
阿 倍 野 区	△ 214	△ 2.0	891	8.2	1,105	10.2
住 之 江 区	△ 602	△ 4.9	813	6.7	1,415	11.6
住 吉 区	△ 551	△ 3.6	1,244	8.1	1,795	11.7
東 住 吉 区	△ 781	△ 6.2	947	7.5	1,728	13.7
平 野 区	△ 819	△ 4.2	1,477	7.5	2,296	11.7
西 成 区	△ 2,157	△ 19.4	458	4.1	2,615	23.6

1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

表 6-3 自然増減率、出生率及び死亡率（上位7区）

順位	自然増減率		出生率		死亡率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	西区	6.4	西区	12.4	西成区	23.6
2	中央区	3.6	福島区	11.1	生野区	14.3
3	北区	2.9	北区	10.4	東住吉区	13.7
4	福島区	2.7	鶴見区	10.2	旭区	12.8
5	天王寺区	2.7	天王寺区	10.2	大正区	12.6
6	鶴見区	1.4	中央区	10.2	平野区	11.7
7	淀川区	△ 0.4	城東区	8.7	港区	11.7

自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

表 6-4 自然動態の推移（外国人）

年次	自然増減			出生			死亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)
平成21年	△ 402	4	1.0	476	△ 10	△ 2.1	878	△ 14	△ 1.6
22年	△ 473	△ 71	△ 17.7	466	△ 10	△ 2.1	939	61	6.9
23年	△ 502	△ 29	△ 6.1	496	30	6.4	998	59	6.3
24年	△ 327	175	34.9	537	41	8.3	864	△ 134	△ 13.4
25年	△ 415	△ 88	△ 26.9	531	△ 6	△ 1.1	946	82	9.5
26年	△ 366	49	11.8	574	43	8.1	940	△ 6	△ 0.6
27年	△ 437	△ 71	△ 19.4	539	△ 35	△ 6.1	976	36	3.8
28年	△ 298	139	31.8	604	65	12.1	902	△ 74	△ 7.6
29年	△ 279	19	6.4	644	40	6.6	923	21	2.3

自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

（2）社会動態

平成29年の社会動態（転入と転出の差）は1万8305人の増加となり、平成28年の社会動態（1万6378人増）と比べると、増加幅は1927人拡大した。また、社会増減率は6.8‰となっている。

社会増減数を区別にみると、北区が3063人と最も多く、次いで西成区が1642人、西区が1534人、東成区が1424人、浪速区が1416人など22区で増加となっている一方、鶴見区が173人減と最も少なく、次いで港区が113人減と続いている。

社会増減率では、北区が24.3‰と最も高く、次いで浪速区が19.9‰、東成区が17.6‰、西区が16.1‰、西成区が14.8‰など、市域中心部で高くなっている一方、鶴見区が1.6‰減で最も低く、港区が1.4‰減と続いている。

ア 転入

平成29年の転入数は19万1414人で、転入率は70.8‰となっている。

転入数を区別にみると、北区が1万4360人と最も多く、次いで淀川区が1万4190人、中央区が1万2802人、東淀川区が1万1848人、浪速区が1万990人と続いている。転入数が最も少ない区は大正区の2600人となっている。

転入率では、浪速区が154.8‰と最も高く、次いで中央区が134.1‰、北区が114.0‰、西区が113.5‰と続いている。転入率でも、大正区が40.2‰と最も低くなっている。

イ 転出

平成 29 年の転出数は 16 万 9774 人で、転出率は 62.8%となっている。

転出数を区別にみると、淀川区が 1 万 2684 人と最も多く、次いで中央区が 1 万 1789 人、東淀川区が 1 万 1201 人、北区が 1 万 1095 人と続く。転出数が最も少ない区は大正区の 2512 人となっている。

転出率では、浪速区が 133.4%と最も高く、次いで中央区が 123.5%、西区が 95.4%、北区が 88.1%と続いている。転出率でも、大正区が 38.8%と最も低くなっている。

ウ その他増減

平成 29 年のその他増減数（実態調査や帰化等及び国籍喪失等による職権記載・消除者数）は、3335 人減となった。

その他増減数を区別にみると、西成区で 451 人減と最も少なくなっている。

エ 外国人の社会動態

平成 29 年の社会動態のうち、外国人は 5947 人の増加となり、平成 28 年の社会動態（5095 人増）と比べると、増加幅は 852 人拡大した。

外国人の転入及び入国数は 3 万 3701 人となっており、転出及び出国数は 2 万 3516 人で、平成 28 年と比べるといずれも増加となっている。

表 6-5 社会動態の推移

年次	社会増減			転入			転出			その他増減	
	増減数 (人)	対前年 (人)	社会 増減率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	転入率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	転出率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)
平成19年	10,045	2,024	3.8	180,072	1,640	68.3	170,027	△ 384	64.5
20年	9,800	△ 245	3.7	179,069	△ 1,003	67.8	169,269	△ 758	64.0
21年	11,304	1,504	4.3	181,851	2,782	68.6	170,547	1,278	64.3
22年	9,178	△ 2,126	3.5	177,693	△ 4,158	66.8	168,515	△ 2,032	63.4
23年	9,210	32	3.5	175,872	△ 1,821	66.0	166,662	△ 1,853	62.5
24年	11,133	1,923	4.2	175,509	△ 363	65.8	164,376	△ 2,286	61.6
25年	11,417	284	4.3	177,364	1,855	66.3	165,947	1,571	62.1
26年	8,059	△ 3,358	3.0	178,011	647	66.5	169,952	4,005	63.4
27年	18,726	10,667	7.0	185,808	7,797	69.3	167,082	△ 2,870	62.3
28年	16,378	△ 2,348	6.1	189,981	4,173	70.6	170,232	3,150	63.3	△ 3,371	...
29年	18,305	1,927	6.8	191,414	1,433	70.8	169,774	△ 458	62.8	△ 3,335	36

1 社会増減数、転入数、転出数、その他増減数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

3 平成22年、27年以外の年の推計人口は、国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表6-6 区別社会動態

区名	社会増減数 (人)	社会増減率 (%)	転入数 (人)	転入率 (%)	転出数 (人)	転出率 (%)	その他増減数 (人)
大阪市	18,305	6.8	191,414	70.8	169,774	62.8	△ 3,335
北区	3,063	24.3	14,360	114.0	11,095	88.1	△ 202
都島区	917	8.7	7,255	68.6	6,211	58.7	△ 127
福島区	828	11.3	6,132	83.6	5,283	72.0	△ 21
此花区	113	1.7	3,519	53.0	3,359	50.6	△ 47
中央区	635	6.7	12,802	134.1	11,789	123.5	△ 378
西区	1,534	16.1	10,845	113.5	9,116	95.4	△ 195
港区	△ 113	△ 1.4	4,064	49.8	4,027	49.4	△ 150
大正区	50	0.8	2,600	40.2	2,512	38.8	△ 38
天王寺区	876	11.3	6,977	90.3	5,900	76.3	△ 201
浪速区	1,416	19.9	10,990	154.8	9,470	133.4	△ 104
西淀川区	376	3.9	5,229	54.8	4,750	49.8	△ 103
淀川区	1,333	7.5	14,190	79.8	12,684	71.3	△ 173
東淀川区	539	3.1	11,848	67.5	11,201	63.8	△ 108
東成区	1,424	17.6	7,111	88.1	5,510	68.2	△ 177
生野区	905	7.0	8,624	66.4	7,590	58.5	△ 129
旭区	142	1.6	4,971	54.4	4,763	52.1	△ 66
城東区	1,181	7.1	9,829	59.4	8,550	51.7	△ 98
鶴見区	△ 173	△ 1.6	5,139	46.1	5,312	47.6	0
阿倍野区	663	6.1	7,416	68.5	6,589	60.9	△ 164
住之江区	192	1.6	5,282	43.2	5,064	41.4	△ 26
住吉区	32	0.2	8,213	53.4	8,139	52.9	△ 42
東住吉区	711	5.6	7,245	57.4	6,400	50.7	△ 134
平野区	19	0.1	8,667	44.3	8,447	43.2	△ 201
西成区	1,642	14.8	8,106	73.1	6,013	54.2	△ 451

- 1 社会増減数、転入数、転出数、その他増減数は前年10月中から当年9月中の合計である。
- 2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーミル)である。

表6-7 社会増減率、転入率及び転出率(上位7区)

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	北区	24.3	浪速区	154.8	浪速区	133.4
2	浪速区	19.9	中央区	134.1	中央区	123.5
3	東成区	17.6	北区	114.0	西区	95.4
4	西区	16.1	西区	113.5	北区	88.1
5	西成区	14.8	天王寺区	90.3	天王寺区	76.3
6	天王寺区	11.3	東成区	88.1	福島区	72.0
7	福島区	11.3	福島区	83.6	淀川区	71.3

社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーミル)である。

表6-8 社会動態の推移(外国人)

年次	社会増減			転入+入国			転出+出国			その他増減	
	増減数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	実数 (人)	対前年 (人)
平成22年	1,345	△ 290	△ 17.7	20,320	△ 288	△ 1.4	18,975	2	0.0
23年	1,003	△ 342	△ 25.4	21,205	885	4.4	20,202	1,227	6.5
24年	2,313	1,310	130.6	20,793	△ 412	△ 1.9	18,480	△ 1,722	△ 8.5
25年	2,617	304	13.1	20,889	96	0.5	18,272	△ 208	△ 1.1
26年	861	△ 1,756	△ 67.1	22,206	1,317	6.3	21,345	3,073	16.8
27年	6,438	5,577	647.7	25,517	3,311	14.9	19,079	△ 2,266	△ 10.6
28年	5,095	△ 1,343	△ 20.9	30,001	4,484	17.6	20,931	1,852	9.7	△ 3,975	...
29年	5,947	852	16.7	33,701	3,700	12.3	23,516	2,585	12.4	△ 4,238	△ 263

社会増減数、転入+入国数、転出+出国数、その他増減数は前年10月中から当年9月中の合計である。

7 年齢別人口

(1) 年齢(3区分)別人口

平成29年の人口について年齢(3区分)別割合をみると、0～14歳人口(年少人口)は10.8%、15～64歳人口(生産年齢人口)は63.4%、65歳以上人口(老年人口)は25.7%となっており、65歳以上人口の割合のみが、平成28年(25.6%)と比べて上昇している。

表7-1 年齢(3区分)別推計人口

年次	人口(人)					割合(%)				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
平成27年	2,691,185	295,298	1,682,798	668,698	317,893	100.0	11.2	63.6	25.3	12.0
28年	2,702,033	295,112	1,715,126	691,795	338,313	100.0	10.9	63.5	25.6	12.5
29年	2,713,157	294,360	1,720,620	698,177	350,113	100.0	10.8	63.4	25.7	12.9

- 1 平成27年は国勢調査結果。平成28年以降は10月1日現在年齢別推計人口。
- 2 平成27年の人口総数は年齢「不詳」を含むため、年齢(3区分)別人口の合計と一致しない。
- 3 平成27年の構成比は年齢「不詳」を除いて算出している。
- 4 平成28年以降は年齢「不詳」を各歳に按分している。

(2) 区別の年齢(3区分)別人口

区別の年齢(3区分)別人口を平成28年と比べると、年少人口の増加が最も大きいのは北区の650人で、最も減少が大きいのは平野区の622人減となった。生産年齢人口では、北区の2304人が最も多く、最も減少が大きかったのは住之江区の845人減であった。老年人口では、東淀川区の630人が最も多く、全ての区で増加となった。

表7-2 区別の年齢(3区分)別人口

区名	平成29年				平成28年からの増減数		
	総数	0～ 14歳	15～ 64歳	65歳 以上	0～ 14歳	15～ 64歳	65歳 以上
大阪市	2,713,157	294,360	1,720,620	698,177	△752	5,494	6,382
北区	129,412	11,595	93,103	24,714	650	2,304	475
都島区	106,523	11,959	68,554	26,010	△75	342	477
福島区	74,381	8,778	50,593	15,010	173	677	179
此花区	66,362	7,806	40,602	17,954	△37	△204	182
中央区	96,438	8,638	71,879	15,921	282	503	196
西区	97,667	11,197	70,876	15,594	379	1,438	328
港区	81,065	8,585	49,853	22,627	△126	△443	84
大正区	64,355	6,975	37,365	20,016	△113	△369	166
天王寺区	78,372	10,164	52,439	15,768	259	556	266
浪速区	72,350	4,862	53,629	13,859	60	1,136	153
西淀川区	95,518	11,775	59,596	24,147	△292	174	262
淀川区	179,136	18,002	119,286	41,847	△134	781	620
東淀川区	175,827	17,567	114,847	43,414	△324	△109	630
東成区	81,881	8,632	52,095	21,154	△60	1,033	175
生野区	129,693	11,691	76,644	41,359	△188	△70	113
旭区	91,069	9,386	54,370	27,313	△117	△342	70
城東区	166,242	20,385	103,207	42,650	42	383	457
鶴見区	111,563	16,921	69,563	25,080	△164	△85	237
阿倍野区	108,642	13,616	66,985	28,041	161	122	166
住之江区	121,785	13,069	72,195	36,522	△145	△845	580
住吉区	153,350	18,011	92,759	42,580	△143	△618	243
東住吉区	126,161	14,219	74,761	37,181	△76	△4	11
平野区	194,955	22,999	116,543	55,413	△622	△429	251
西成区	110,410	7,529	58,877	44,004	△140	△436	61

各年10月1日現在年齢別推計人口。年齢「不詳」は各歳に按分している。

区別の年齢（3区分）別人口の割合をみると、年少人口では鶴見区が15.2%と最も高く、次いで天王寺区が13.0%、阿倍野区が12.5%と続く。最も低いのは浪速区の6.7%となっている。

生産年齢人口では中央区が74.5%と最も高く、次いで浪速区が74.1%と続く。最も割合が低いのは西成区の53.3%となっている。

老年人口では西成区が39.9%と最も高く、次いで生野区が31.9%と続く。西区が16.0%と最も低くなっている。

表7-3 区別の年齢（3区分）別人口割合

区名	平成29年				平成28年からの増減		
	総数	0～	15～	65歳	0～	15～	65歳
		14歳	64歳	以上	14歳	64歳	以上
大阪市	100.0	10.8	63.4	25.7	△ 0.07	△ 0.06	0.13
北区	100.0	9.0	71.9	19.1	0.27	△ 0.13	△ 0.14
都島区	100.0	11.2	64.4	24.4	△ 0.15	△ 0.13	0.28
福島区	100.0	11.8	68.0	20.2	0.07	△ 0.03	△ 0.04
此花区	100.0	11.8	61.2	27.1	△ 0.05	△ 0.25	0.30
中央区	100.0	9.0	74.5	16.5	0.20	△ 0.24	0.04
西区	100.0	11.5	72.6	16.0	0.14	△ 0.12	△ 0.02
港区	100.0	10.6	61.5	27.9	△ 0.09	△ 0.18	0.27
大正区	100.0	10.8	58.1	31.1	△ 0.12	△ 0.29	0.41
天王寺区	100.0	13.0	66.9	20.1	0.15	△ 0.22	0.06
浪速区	100.0	6.7	74.1	19.2	△ 0.04	0.19	△ 0.15
西淀川区	100.0	12.3	62.4	25.3	△ 0.32	0.09	0.24
淀川区	100.0	10.0	66.6	23.4	△ 0.15	△ 0.04	0.18
東淀川区	100.0	10.0	65.3	24.7	△ 0.20	△ 0.13	0.33
東成区	100.0	10.5	63.6	25.8	△ 0.22	0.37	△ 0.15
生野区	100.0	9.0	59.1	31.9	△ 0.13	0.01	0.12
旭区	100.0	10.3	59.7	30.0	△ 0.08	△ 0.12	0.20
城東区	100.0	12.3	62.1	25.7	△ 0.04	△ 0.10	0.14
鶴見区	100.0	15.2	62.4	22.5	△ 0.15	△ 0.07	0.21
阿倍野区	100.0	12.5	61.7	25.8	0.10	△ 0.14	0.05
住之江区	100.0	10.7	59.3	30.0	△ 0.08	△ 0.49	0.58
住吉区	100.0	11.7	60.5	27.8	△ 0.05	△ 0.20	0.25
東住吉区	100.0	11.3	59.3	29.5	△ 0.05	0.03	0.03
平野区	100.0	11.8	59.8	28.4	△ 0.27	0.03	0.24
西成区	100.0	6.8	53.3	39.9	△ 0.09	△ 0.15	0.24

表7-4 年齢（3区分）別人口割合（上位7区）

順位	0～14歳		15歳～64歳		65歳以上	
	区名	割合（%）	区名	割合（%）	区名	割合（%）
1	鶴見区	15.2	中央区	74.5	西成区	39.9
2	天王寺区	13.0	浪速区	74.1	生野区	31.9
3	阿倍野区	12.5	西区	72.6	大正区	31.1
4	西淀川区	12.3	北区	71.9	旭区	30.0
5	城東区	12.3	福島区	68.0	住之江区	30.0
6	福島区	11.8	天王寺区	66.9	東住吉区	29.5
7	平野区	11.8	淀川区	66.6	平野区	28.4

平成29年10月1日現在の人口に対する割合である。

(3) 年齢(5歳階級)別社会動態

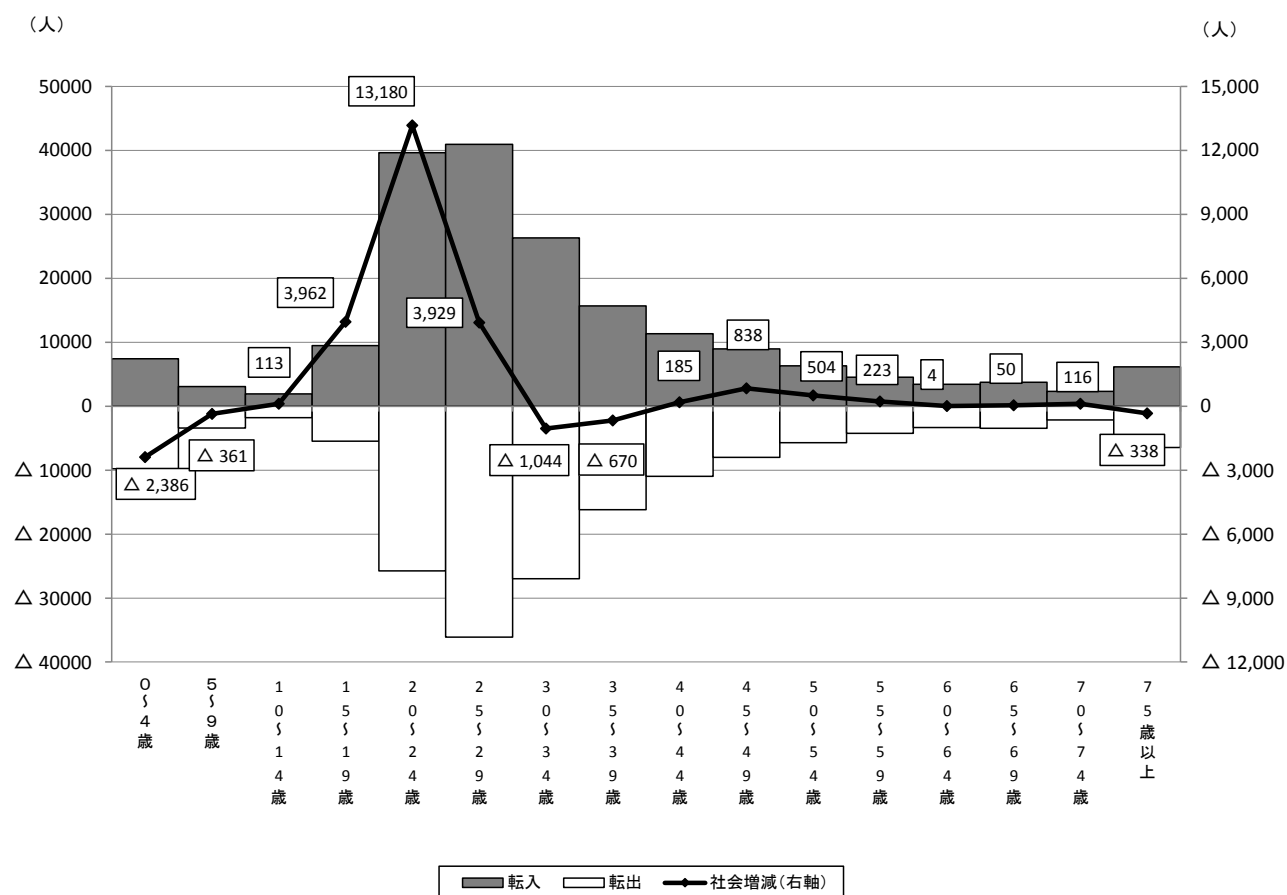
平成29年の社会増減を年齢（5歳階級）別にみると、15歳から29歳までの各階級で3000人を超える増加となっており、特に「20～24歳」では1万3180人となっている。これに対して、30歳

から 39 歳及び0歳から 9歳までの各階級（世帯形成層・育児層及びその子どもの層）では減少となっている。

表 7-5 年齢（5歳階級）別転入、転出、その他増減及び社会増減数

(人)								
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
転入	7,413	3,095	1,921	9,483	39,639	40,954	26,335	15,707
転出	9,784	3,415	1,795	5,463	25,758	36,106	26,972	16,172
その他増減	△ 15	△ 41	△ 13	△ 58	△ 701	△ 919	△ 407	△ 205
社会増減	△ 2,386	△ 361	113	3,962	13,180	3,929	△ 1,044	△ 670
	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
転入	11,327	8,983	6,335	4,544	3,437	3,768	2,325	6,148
転出	10,977	7,987	5,708	4,231	3,349	3,448	2,152	6,457
その他増減	△ 165	△ 158	△ 123	△ 90	△ 84	△ 270	△ 57	△ 29
社会増減	185	838	504	223	4	50	116	△ 338

図 4 年齢（5歳階級）別社会動態



(4) 区別の年齢(5歳階級)別社会動態

区別の社会増減を年齢（5歳階級）別にみると、15歳から29歳までの各階級合計では淀川区が2166人と最も多く、次いで北区が2160人、浪速区が1918人、西区が1869人と続いている。30歳から39歳までの各階級合計では東淀川区が676人減と最も少なく、次いで淀川区が368人減、浪速区が324人減、中央区が322人減、生野区が206人減と続いている。

表 7-6 区別の年齢（5歳階級）別社会増減数

(人)

区名	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
大 阪 市	△ 2,386	△ 361	113	3,962	13,180	3,929	△ 1,044	△ 670
北 区	△ 124	29	49	283	1,283	594	198	160
都 島 区	△ 75	△ 43	3	122	615	279	47	23
福 島 区	△ 121	△ 6	△ 8	53	716	314	12	△ 11
此 花 区	△ 69	△ 33	△ 11	112	193	76	△ 29	△ 91
中 央 区	△ 247	1	△ 22	216	1,130	288	△ 249	△ 73
西 区	△ 247	△ 20	16	178	1,058	633	35	△ 100
港 区	△ 55	△ 18	△ 7	24	294	△ 41	△ 118	△ 52
大 正 区	0	△ 2	5	17	87	△ 25	△ 37	22
天 王 寺 区	△ 20	72	50	106	409	132	47	48
浪 速 区	△ 211	△ 76	2	374	1,212	332	△ 252	△ 72
西 淀 川 区	△ 97	△ 21	△ 9	100	347	158	36	△ 44
淀 川 区	△ 353	△ 56	△ 2	287	1,604	275	△ 166	△ 202
東 淀 川 区	△ 305	△ 109	△ 28	372	1,174	△ 59	△ 373	△ 303
東 成 区	△ 52	△ 10	5	131	775	439	△ 3	26
生 野 区	△ 97	7	△ 2	415	592	△ 1	△ 131	△ 75
旭 区	△ 66	△ 11	6	93	135	16	△ 6	△ 69
城 東 区	△ 16	△ 4	24	125	523	227	118	21
鶴 見 区	△ 132	△ 20	3	△ 22	△ 1	173	△ 43	19
阿 倍 野 区	124	73	20	165	52	△ 12	77	129
住 之 江 区	△ 13	△ 12	25	71	80	△ 46	△ 13	△ 5
住 吉 区	△ 80	△ 31	△ 5	138	218	102	△ 127	△ 63
東 住 吉 区	5	40	29	192	100	89	73	88
平 野 区	△ 104	△ 113	△ 39	135	133	△ 19	△ 97	△ 67
西 成 区	△ 31	2	9	275	451	5	△ 43	21
区名	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
大 阪 市	185	838	504	223	4	50	116	△ 338
北 区	128	187	125	83	54	△ 2	26	△ 10
都 島 区	4	28	25	△ 2	△ 64	△ 45	5	△ 5
福 島 区	△ 50	△ 15	0	△ 11	△ 19	△ 8	△ 9	△ 9
此 花 区	△ 31	4	1	18	△ 7	2	△ 2	△ 20
中 央 区	△ 83	△ 55	△ 22	△ 35	△ 41	△ 47	△ 38	△ 88
西 区	2	79	1	△ 1	△ 40	△ 31	△ 10	△ 19
港 区	△ 35	6	26	△ 49	4	△ 24	8	△ 76
大 正 区	4	5	8	28	△ 3	△ 1	△ 16	△ 42
天 王 寺 区	41	25	17	△ 2	△ 7	△ 7	14	△ 49
浪 速 区	60	15	21	△ 9	30	△ 6	11	△ 15
西 淀 川 区	△ 9	11	△ 14	△ 2	△ 2	△ 44	△ 22	△ 12
淀 川 区	2	107	39	△ 46	△ 49	2	△ 36	△ 73
東 淀 川 区	△ 67	49	62	29	28	△ 2	36	35
東 成 区	78	47	12	△ 13	△ 8	△ 9	24	△ 18
生 野 区	13	76	33	37	7	△ 35	△ 9	75
旭 区	22	18	20	19	5	14	△ 7	△ 47
城 東 区	30	56	26	3	△ 4	24	23	5
鶴 見 区	△ 86	△ 15	9	△ 22	△ 27	4	9	△ 22
阿 倍 野 区	71	15	20	32	△ 12	△ 41	△ 33	△ 17
住 之 江 区	41	52	△ 4	15	△ 7	16	14	△ 22
住 吉 区	△ 58	△ 8	△ 32	△ 19	△ 23	△ 3	4	19
東 住 吉 区	14	41	32	△ 1	△ 11	39	△ 12	△ 7
平 野 区	27	△ 46	8	35	50	38	44	34
西 成 区	67	156	91	136	150	216	92	45